



京東
華^{とふ}
謠^{うた}
新^{あらた}
聞^{ぶん}

發水
曜
免日

第
四
號

新話
和歌
力落しぼなし
富士土産
詩
新曲
賣淫ノ風習ヲ禁遏スルノ策
讀華謠新聞

明治九年八月廿三日

洋学文庫
文庫8
C 502





華謠新聞第四號

○讀華謠新聞

埼玉縣下

橋楊洲稿



兵書ニ曰ク始メハ處女ノ如ク終リハ脱兔ノ如シト嗚呼我
 ガ宮本小松二君ノ爲ス所ノ如キハ此語ト反對スルモノカ
 曩ニハ二君脱兔ノ如キ急激ナル言論ヲ以テ政府ノ罪囚ト
 ナリ獄中ニアルコト幾旬ナリシモ客月限滿ヲ再ビ娑婆ニ
 出ルヤ忽チ處女ノ如ク其名モ優シキ華謠新聞ノ社ヲ開キ
 詩ヤ文ヤ歌ヤ發句ヤよーこの雜誌總テ華謠ノ調子ニ適合
 スルモノハ蒐輯登錄シテ世人ノ睡リ醒シトナサントス嗚
 呼二君始メハ脱兔ノ如ク終リハ處女ノ如シト云フベキナ
 リ然レモ二君豈畢生處女ノ如クニシテ止ムノ人ナランヤ
 願フニ其獄中ニアルヤ糞桶ノ惡臭ヲ嗅ギ苦楚ヲ嘗ルモノ

57157

數月ナリト雖^{キヤツチツ}胸中自ラ雄壯ナル膽力アリテ苦中ノ苦ヲ
 苦トモ思ハズ華語ヲ^{ツマ}謠ヒ洒然自適セシヲ以テ期滿チテ娑
 婆ニ出ルモ華語ノ^ク馴調忘ル能ハズ曾テ二三同囚ト共ニセ
 シ華語モ寧ロ今日遍ク娑婆世界ノ人ニ與ヘテ見聞セシメ
 ノニハ如カズト一時餘響ノ及ブモノアツテ然ルナラシメ
 然^ハ則チ其興盡キノトスルニ至レバ又慷慨悲歌一世ヲ^{イダ}睨
 スルノ豪話ヲ吐露シ復タ脫兔ノ如キ形狀ヲ現出センモ未
 ダ測知スベカラザルナリ然レモ是亦機ヲ見テ變ニ應ズル
 兵家ノ常法ノミ何ゾ怪シムニ足ンヤ世人唯其華語ヲ以テ
 其人ヲ輕視シ併セテ其新紙ヲ^{ベツ}蔑棄スル勿レ

○賣淫ノ風俗ヲ禁遏スルノ策

横瀬文彦

余曾テ一歐人本邦ノ風俗ヲ^{トムル}評スルヲ聞ク其言ニ曰ク日本

ノ紳士ハ妓ト妾トヲ尙ビ買淫ノ風專ラ其社會ノ間ニ流行
 ス此俗益々増長シテ止マザレバ^{イッ}早晚婚姻ノ大儀廢絶シ夫
 婦ノ倫理泯滅スルヲ見ルニ至ラントスト余初メ聞テ之ヲ
 信ゼズ偶マ歐洲ノ古史ヲ一閱スルニ一珍説ヲ載セタリ「ス
 パタルタ」ノ攝政「リキユリギス」ガ武ヲ以テ國威ヲ振作セシヨ
 リ其俗大ニ武勇ヲ尙ビ其國民ノ年老ヒテ少婦ヲ有スル者
 ハ之ヲ年少壯士ニ貸與シ其壯種ヲ取ルヲ常トナセリト云
 フ嗚呼夫レ情愛ノ厚キハ夫婦ノ間ニ如クモノナカル可シ
 然レモ習俗ノ然ラシムル所口截然其厚情ヲ一割シテ愛惜
 セザルニ至ル豈之ヲ奇々妙々ト謂ハザル可ケンヤ此ニ至
 テ余徒^{イヌツ}ラニ妄誕虛誣ヲ以テ歐人ノ評スル所ヲ一抹シ得ザ
 ルヲ悟リ併セテ知ル本邦賣淫ノ蔓延スルハ買淫ノ隆盛ナ

ルニ根シ是レヲ退ムルハ彼レヲ抑ユルニ在ルヲ記シ了テ

浩歎

○新曲

荻江露友

「玄よてい他人でありながらいつそ命もうちこんで笑ひ
さるゝごじようあわく苦勞する氣よなるいナ
ないてあせしまつ虫のなりぬほたるが身をまがす玄
のぶ千種よつゆふろくにくやからずの心なし

○玉川堂主人園中新作瀑布索詩

春濤壽史

天下不_レ乏_ニ真山水_ニ而喜_ニ假山水_ニ何哉_キ雲可_レ培_ス花可_レ栽_ユ數畝之宅城
之隈園容論_{シテ}夏_ニ頓_ニ增_ス價_ナ石氣經_レ雨_ニ生_ス莓苔_ナ碧_ニ滌_ス河_ニ青_ニ崔_ニ嵬_ニ中有_ニ百
尺之樓臺_ニ誰_カ鑿_テ一_ニ道_ニ井_ナ驚_ス起_ス地底_ニ殷_々雷_ニ誰_カ厚_ニ萬_ニ斛_ニ水_ニ直_ニ自_ニ空_ニ裏_ニ
傾瀉_ス來_ル人_ノ髮_ニ竦_ス然_レ股_ニ欲_ス栗_ス拍_レ欄_ニ絶_レ叫_ル看_ル幾_ニ回_ニ飛_ニ沫_ニ如_レ霧_ニ撲_ス衣_ニ袂_ニ餘

涼透_レ簾_ニ松色_ニ堆_ス池魚_ニ潑_ス刺_ス躍_テ不_レ己_マ柳絲_々彈_レ蓮蕊_ニ開_ク臺上_ニ仙客_ノ果_ク
誰_ッ也_ニ一_ニ笑_ス手_ニ舉_グ琉瑠_ノ杯_ニ欲_ス爲_ニ柳州_ニ補_ト游<sub>記_ニ應_ニ有_ニ白_也非_ニ凡_{才_也古_{稱_ニ}}
仙才_ト今_ニ不_レ見_ス垂_ニ天_ニ鵬_ノ翼_ニ如_ニ塵_ニ埃_ニ但_レ見<sub>一_ニ洞_ニ通_ニ九_{有_ニ水_ニ瀑_{當_ニ面_ニ魚_{曝_ス}}}
腮_ニ鳴<sub>手_ニ天下_ノ之_ニ事_ニ莫_シ非_ニ假_ニ由_ニ假_ニ工<sub>夫_ニ得_ニ新<sub>裁_ナ主_{人_ノ心_{匠_{巧_{如_レ此_ニ做_ニ}}}}
真山水_ニ看_レ不_レ猜_ス</sub></sub></sub></sub></sub>

○富士土産

西清六録

毎年暑中ノ富士參リハ先祖ヨリ傳來ノ大珠數ヲ肩ニ懸ケ
白衣ヲ着シ大勢連行ス是レハ乃チ舊弊先生ノ爲ス所ニシテ
小可等ノ如キ開化連ノ爲ス所ニ非ス小可等ノ開化連ハ遠
眼鏡ヲ腰ニ附ケ世界繪圖ト磁石ヲ携ヘ而カモ土用ノ真最
中富士ノ絶頂ニ箕座シ東京ノ景況ヲ一見スルニ千狀萬態
名狀ス可カラザルノ奇景ナリ然レモ小可ハ天性助兵衛ナ

ルナ以テ第一ニ鏡尖ノカチノサキチ吉原ニ着シ深川ヨリ品川新橋ヨリ
 芳町而シテ偶マ鏡尖チ柳橋ニ轉ズレバ一大樓上ニ意氣揚
 ヲタル一客ノカチノサキ官員ナラハ奏任己上ノカチノサキナボレオンノカチノサキ髻ノカチノサキチ八ノ字ニ
 撫テ金皮ノ時計ハ胸邊ニ煌々ト月給ノ多キハ其面ニ現
 ハレタリ側ニ二八ノ一妓チ擁シ口解クガ如ク挑ムカ如シ
 然レモ妓ハツン、然トシテ敢テ肯キカゼズ時ニ客何ニ思ヒ
 ケン懷中ヨリ五圓カ十圓カ分明ナラザレモ大ベラ札チ妓
 ニ投ズ纏頭ニハ多シ右ノ眼チ怪ス是レコソ肝腎金棒ツバキ瞬ツバキキ
 ス可カラズト一生懸命ニ見詰ムレハ妓ハ忽チ笑チ含ミ柳
 腰席ニ垂レ織指客ノ膝頭チ捻一捻スルニ至テ忽焉トノナ
 ポレオンノカチノサキ髻ハ妓ノ紅唇ニ生ヘタル如クニ見ヘニケリ偶マ
 三尺棒公樓下ニ來リ立ッ嗚呼危イ哉々々々ト知ラズ小可

ノ涎ノ三尺ナルチ時ニ雷鳴轟々黒雲一朶脚下ヨリ起リテ
 鏡尖チ遮リ咫尺モ見ル可カラズ跡ハ晴天チ待チテ次號ニ
 報ゼン

○力落しばなし

篠田仙果

チヨイトお聞よ華ちやんけんが強いといふから藤八さ
 んや本拳の一さんが絞りだのニッ打だの智愚競だのを打
 た處がごふしても叶はないので新けんを出したら華ちや
 んがさんノカチノサキに負たは合あせればろくけんだから

○或人のモこより福羽美静君の和歌なりとて左の三
 首を寄せられたり

夏の月

かにかくに心のくまをこりすて

松

わかかれとわかなくてよろし老ぬれ

老てよろしき庭のまつかゑ

竹

月の夜も雪のあしたもおもしらく

うちなひさけり窓のくれたけ

隅田の菴にほこさすのさく比ひとやに在る末

成島柳北

さくわれも血にそ啼くなり柴の戸に

たれを待乳のやまほこさす

○新話

○屋氣樓を蛤が吹くとて珍らしそふ又名所記なぞ又記載

てありますが金瓶大黒の蛤が舊地へ吹出すといふ樓閣の

間口が三十二間奥行の五十八間地境へ火除の練塀を築立

て西洋風の四階造り鉄の柱の英國へ注文するとう云ふが

此様な蛤の何様な風味が玄まするかマア食のぬりた

○俳諧師の小松百龜の百度轉宅して百庵と號し又畫家前

北齋戴斗翁の九十六度居を移せしとぞ現よ浮世畫師豊原

國周の去る十五日金杉村より新福井町十二番地へ轉宅せ

しが日向甚だ悪しとて下谷徒町三丁目引越し此所のあ

まりに手挾ありとてまた浅草三筋町へエンサカホイ

と巢を替ました一日の内よ三度移居とい是らもマア新聞

のうちさ

○近時一種の弄器あり竹二本を四五寸み切り上下の切口
 紙を粘り糸を竹より竹と連続け一箇の筒を口と當て物
 言ばその音聲糸と傳り彼筒と通ずこの器を坐鋪電線と
 いふ小兒これを玩んで害なし大人この器を貴重なさば竹
 筒をうり當筒放の悔あらん

第三號新話中ニ落語家燕枝云々ト記載セシハ全ク事實

コレナキニシ因テ爰ニ正誤ス

編輯兼印刷人

宮本千萬樹

定價 一冊 二錢五厘
 前金 五冊 十二錢
 同 十冊 二十三錢

府外遞送ハ此外ニ郵便税ヲ受ク

東京淺艸三好町二番地

本局 風香月影社

賣
 同 尾張町二丁目六番地 集思社
 同 東福田町二番地 伊勢屋忠次郎
 同 淺艸並木町十番地 菱屋藤吉
 同 麴町四丁目六番地 前田富五郎
 同 照降町 惠美須屋庄七

所

同 濱町二丁目二番地	松 下 仙 助
同 南茅場町二十七番地	石 原 才 次 郎
同 本町三丁目二十番地	瑞 穂 屋 卯 三 郎
同 淺州公園地新聞一覽所	知 新 社
尾州名古屋本町二丁目	吉 田 道 雄